

Cacela Velha

について



写真: Pedro Reis - Turismo do Algarve

カセラ・ヴェーリャは小さくてユニークな歴史的建造物の複合体で、周囲がほぼ円形で、南に向かえば要塞に、東と西に向かえば教区墓地に接し、リア・フォルモーサ（Ria Formosa）を見下ろしています。

考古学的発掘により、アルモハド時代の終わりから定住していたことが判明しました。ムーア人の征服後、集落は聖ヤコブ騎士団に寄贈されました。ポルトガルのディニス王から勅許を与えられ、町になりました。現在の要塞は、ポルトガルのジョアン 3 世王とセバ스티アン王の治世下に建設されました。

1538 年、中世の教会の廃墟の上に、聖母被昇天教会 (Igreja de Nossa Senhora da Assunção) が建てられました。教会は、アルガルヴェ地方のヴァナキュラー建築の単層の建物群のなかで一際目立っています。

川の沈泥堆積が徐々に進んだことと、1755 年の地震によって引き起こされた荒廃により、町は砂漠化し、ヴィラ・レアル・ドゥ・サント・アントニオ (Vila Real de Santo António) に統合されました。

カセラ・ヴェーリャのアーバンセンターは、1996 年に公益財産として分類され、現在、セントジェームスのポルトガルの道の東洋ルートに指定されています。

海とリア フォルモサ自然公園 (Parque Natural da Ria Formosa) を見渡す素晴らしい景観もここを訪れるに値するものです。近くのファブリカ (Fábrica) では、小さな漁船が静かな砂浜を楽しむ島々への航路を提供しています。

問い合わせ先

Vila Nova de Cacela